2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	分子細胞機能制御学特論Ⅰ・Ⅲ	大友 孝信

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

遺伝性疾患の病態を解明するために必要な先行研究結果を英語原著論文で読み，研究の遂行に必要な知識を得るとともに，研究結果を正確かつ魅力的にプレゼンテーションする能力を身につける。

授業到達目標

（1）研究に必要な英語論文を検索することができる。
（2）先行論文をクリティカルリーディングし，図や表の内容を評価することができる。
（3）自分の研究との関連性を理解し，研究に役立てることができる。
（4）論文の構成を理解し，自分の論文作成に役立てることができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	火	13:00-14:00	大友 孝信	講義	[研究検討会]	毎週の研究内容の進捗をまとめてプレゼンテーションしてもらい，今後の研究計画について教室員とともに検討する。 [場所:本館棟 6 階カンファレンス室 12]
2	毎週	火	14:00-15:00	大友 孝信	講義	[抄読会]	遺伝性疾患，ライソゾームやオートファジー等に関連する最新の英文論文を紹介し，それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟 6 階カンファレンス室 12]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

発表に対して随時指導する。また教員の発表を見てプレゼンテーションの仕方を学ぶ。

教科書

ISBN-9784815731311, 細胞の分子生物学, Bruce Alberts [ほか著者]；青山聖子 [ほか] 訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2025
ISBN-9784759815054, オートファジー　生命をささえる細胞の自己分解システム, 水島昇・吉森保編, 化学同人, 2014
ISBN-9784759817232, メンブレントラフィック：膜・小胞による細胞内輸送ネットワーク, 福田光則, 吉森保編, 化学同人, 2016

参考書

ISBN-9784815731250, トンプソン&トンプソン遺伝医学・ゲノム医学, Ronald Doron Cohn, Stephen W. Scherer, Ada Hamosh [著], エルゼビア・ジャパン, 2025
ISBN-9784320057791, 新・生細胞蛍光イメージング, 原口 徳子・木村 宏・平岡 泰編, 共立出版, 2015

準備学習（予習・復習等）

（1）事前に論文を充分に読み込んで質疑応答に備える。また，論文紹介用のスライド資料を作成すること。
（2）議論したことを次回以降の研究や学習に生かせるように，理解しておく。
一概に時間は指定しないが、十分な時間をかけて準備をしておくことが求められる。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

学位認定のための研究活動の一環として，情報収拾能力および批判的解釈能力を身につけることを目標としています。

注意事項・メッセージ

自主的に積極的に研究に取り組む姿勢が大事です。一流の研究成果をあげるためには好奇心と忍耐力が必須です。やる気のある学生さんに対しては責任を持って指導しますので頑張りましょう。